

インド農村部から SDGs への貢献

株式会社リコー 執行役員

サステナビリティ推進本部長 加藤茂夫

リコーは「持続可能な社会づくり」に向け 社会課題解決型ビジネスの創出に力を入れる

変化の激しい現代社会において企業が成長し続けるためには、持続可能な社会づくりに貢献すると同時に、この大きな変化を成長につなげるためのイノベーションを起こすことが必要だ。リコーグループは、「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」という創業者の三愛精神を基盤とした「リコーウェイ」を企業活動の理念とし、「世の中の役に立つ新しい価値を生み出し、提供し続けることで、人々の生活の質の向上と持続可能な社会づくりに積極的に貢献する」ことを使命と定めている。この理念、使命に沿うかたちで新興国の BOP 層を対象とした社会課題を解決する事業の創出を目指した活動に取り組んでいる。

女性のコミュニティの場づくり

2010年にリコーの「BOP プロジェクト」はスタートした。インド農村部で現地の人たちによる事業を立ち上げ、その拡大を支援する製品・サービスをリコーの事業として創出することを目指している。これは、これまでオフィス事業の分野で培った、お客様に寄り添い、お客様の事業拡大を支援してきた従来のリコーの価値提供スタイルそ



ウーマンショップ1号店のオーナー

のものである。

10年～11年にかけて、リコー社員がインド・ビハール州の農村部に滞在し、現地の人々の生活・文化を理解し、現地の人々とのコミュニケーションを繰り返すことで、困りごとやニーズの把握を行なった。その結果生まれた現地のビジネスが、女性のエンパワーと雇用創出を目指す「ウーマンショップ」だ。社会的に制約が多い現地の女性たちが自由に買い物し、情報交換もできる女性コミュニティの場づくりが目的だ。

現地にポジティブな変化

11年12月に1号店が開店したウーマンショップは、17年3月までに、ビハール州を中心に70店舗に広がっている。現地の人々や連携パートナーも気付いていなかった、女性オーナーによる店舗という発想が現地の人たちに受け入れられ拡大していることは、外部からの視点が現地にポジティブな変化をもたらした好事例と言えるのではないだろうか。また、ウーマンショップは、女性起業家の収入向上やエンパワーメントに加え、地域における女性の地位向上や女性コミュニティの活性化といった効果ももたらしており、様々な観点から持

BOP プロジェクトが貢献する SDGs

